

——今期上期の業績と通期の見通しを。

「前期の2024年度（25年3月期）業績は最高益を更新できた。ただ、25年度に入り、橋梁や建築向け免震装置などを手がける土木建築機材事業の需要が落ち込んだ。人手不足や資材高騰による工事の停滞が影響。特に橋梁などの公共案件は予算が執行できなくなっている。こうした状況から免震装置に関しては25年度の計画達成が厳しくなっている」

「民間向けが主体の鋳物を中心とした素形材事業は比較的堅調だ。顧客の産業分野によって濃淡はあるが半導体関連の需要は引き続き活発。当社では低膨張材『ニレジスト』や精密鋳造『ロストワックス』の需要が好調だ。一方、自動車関連はトランプ関税の影響もあって動きが停滞している」

「当社全体で見れば25年度上期の業績は厳しい。好業績が続いた直近3カ年に

川金ホールディングス 鈴木 信吉社長



に今夏の酷暑で鋳物業の人材確保は一段と難しくなった。人材の維持・確保は大きな課題。当然、省力化や自動化が課題となるが、それも一朝一夕にできるものではない」

「3カ年の「第5次中期経営計画」は25年度が中間年度。進捗状況は。全体として見れば、ほぼ予定通り。足元では免震装置の需要落ち込みを素形材が補っている。最終年度の需給が大きな課題になると思う。鋳物で使用する鉄スクラップは、いわゆる上級品種。高炉メーカー各社が電炉化を進める中、上級スクラップの調達が難しくなる可能性はある。資

「中長期的には鉄スクラップの需給が大きな課題になると思う。鋳物で使用する鉄スクラップは、いわゆる上級品種。高炉メーカー各社が電炉化を進める中、上級スクラップの調達が難しくなる可能性はある。資

——KX（カワキン・トランスフォーメーション）の成果は。

「KX」でサービス分野に事業拡張

共成建設をグループ化、初の建設業

比べるといえば、踊り場を迎えた格好。下期は自動車関連の改善などに期待するが、今期通期で最高益の更新は難しい状況だ」

——素形材事業を取り巻く環境について。

「ここ数年続いた原価高を迎えた格好。下期は自動車関連の改善などに期待するが、今期通期で最高益の更新は難しい状況だ」

——素形材事業を取り巻く環境について。

「省力化など生産効率化の投資は徐々に進んでいる。また、昨年10月に橋梁の施工を行う建設業、共成建設（本社・埼玉県源ナシヨナリズムから米国さいたま市）を川金コアテックの子会社としてグループ化した。グループ会社に入ったのは初めての。橋の施工ノウハウを活かし、橋梁用支承の保守・点検や交換提案を行うサー

日本鋳造との協業検討、技術力底上げ

ビスにつなげたい。モノを造るだけでなく、付加価値を高めるサービス分野に事業を広げることが大切だと考えている」

——日本鋳造との協業検討について。

「日本鋳造は、鋳造と橋梁用支承という事業内容で当社と似ている。当然、競合会社ではあるが、同じ領域で事業を行う両社は直面する課題や悩みが共通する。個社では解決できない課題に対し、ともに何かできないか。協業の検討を始めた。具体的には、鋳造事業の『素形材』と、『橋梁用支承』のそれぞれでワーキンググループを設置。両社で意見交換をスタートしている。来年度初めには何らかの協業が開始できればと考えている。当社としては互いの優れた技術を学び合い、技術力の底上げにつなげていきたい」

——グループ各社のトピックスを。

「グループ各社で積極的

（小堀 智矢）